

つよ せいちょう  
強く成長する、No.5 :

わたしたち とも かみ  
私達と共におられる神

「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。  
その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。これは、  
『神われらと共にいます』という意味である。」  
(口語訳聖書、マタイによる福音書 1:23)

いま わたし、ちゆうしょうてき  
今から私が抽象的な  
じじつ とく  
事実や徳について  
はな はし  
話し始めるとしよう。  
たと えいゆうてきししつ  
例えば、英雄的資質だ。

えいゆうてきこうどう  
英雄的行動の  
ないはつてきしんり  
内発的心理



それを、じつれい  
それを、実例をあげず、

えいゆうてきししつ かぎ こま ひと たい おも  
英雄的資質への鍵とは、困っている人に対する思いやりであり、自身の危険を  
しょうち うえ み かえ きたい どうとくてき りねん つらぬ きも  
承知の上で、見返りを期待せずに、道徳的な理念を貫く気持ちである。

えいゆうてき こうい し ふしやう どうごく たしんごく  
英雄的な行為には、死や負傷や投獄や、その他深刻で  
じゆうだい けつ か え おお きけん ともな  
重大な結果になり得る大きな危険が伴う。

に れい  
似た例をあげず、

はなし  
それにまつわる話もしないなら、

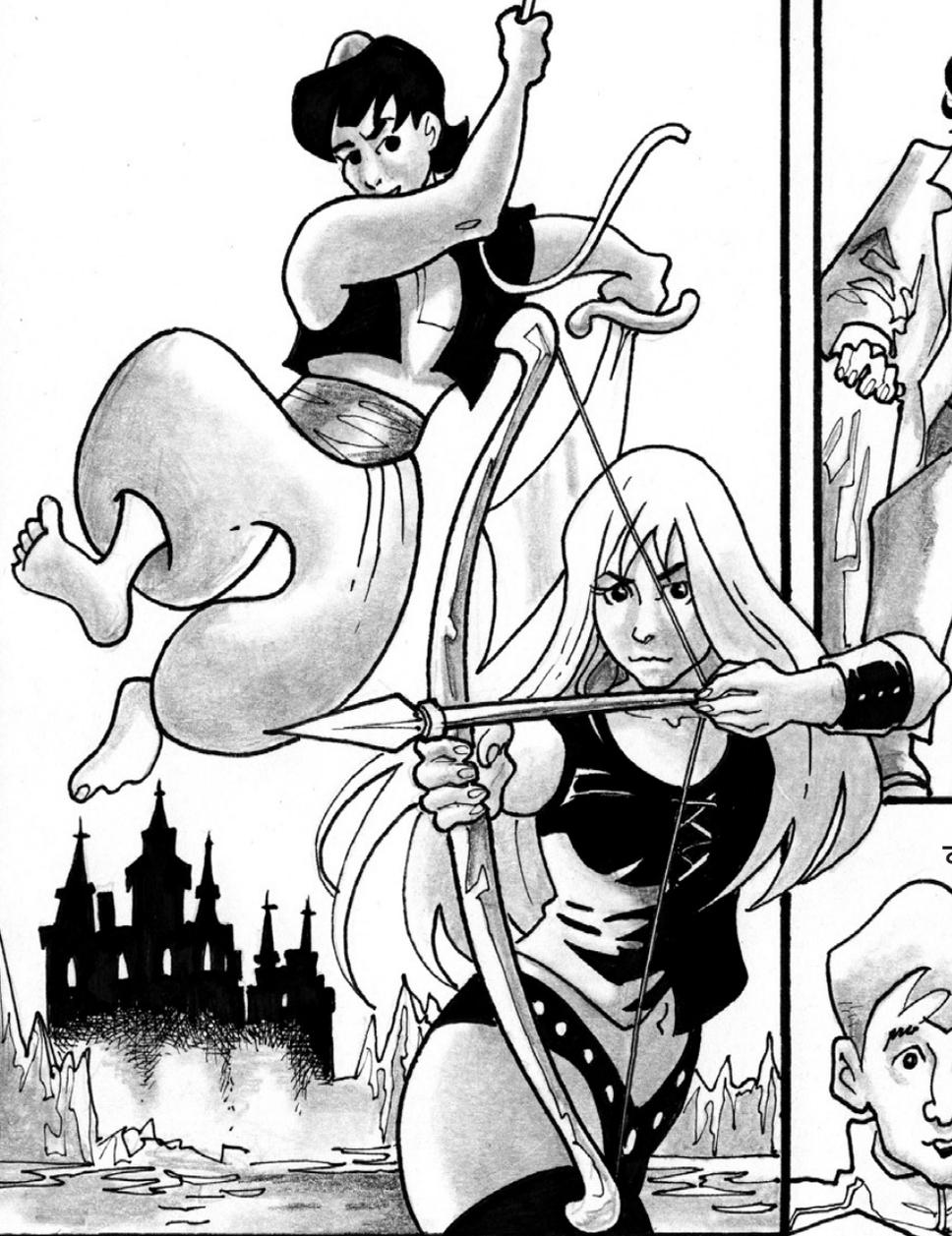
えいゆうてきししつ けつ か し ふしやう  
英雄的資質は、結果として死や負傷の  
かのうせい た ひと たす と こうどう な た  
可能性があるにもかかわらず、他の人を助けようとして取られる行動から成り立つ。

けつ か う だ  
どのような結果を生み出すことになるだろう？

わけがわからず、ふあん  
わけがわからず、不安とおそれしかないことだろう。



では、英雄的資質を抽象的に  
説明する代わりに、たとえ話や  
おとぎ話にして説明してみよう。



または、デイヴィッド・リヴィングストンの  
ような、勇敢な人の話をする事もできる。



ジャンヌ・ダルクの話もだ。



すると、無関心だった反応が、即座に興味津々な反応に切り換わる。



はなし <sup>すす</sup>話をさらに進めてみよう。徳というものを、  
ゆうがん <sup>ひと</sup>ある勇敢な人の具体的な話で説明する代わりに、  
せつめい <sup>か</sup>その事実をある人の人生として  
しじつ <sup>ひと</sup>よみがえらせてみよう。

ゆうがん <sup>ゆうがん</sup>勇敢なキャラクターを、  
えいゆう <sup>えいゆう</sup>英雄にふさわしい人生の中で  
びょうしゃ <sup>な</sup>描写してみよう。

すると、なに <sup>お</sup>何が起こるか？



けんしん <sup>けんしん</sup>なんて献身的  
なんだろう。

すごい <sup>あい</sup>愛だわ。

どうしたら、  
かのじょ <sup>かのじょ</sup>彼女みたいに  
なれるのがしら？

ばくせん <sup>がいねん</sup>漠然とした概念に対する

つかみどころのない  
ぎもん <sup>じょうねつ</sup>疑問は、情熱の  
こもった <sup>しょうさん</sup>称賛に  
かわり、それは  
けつじつ <sup>あい</sup>結実して愛と  
なるだろう。



たいせつ <sup>ひと</sup>大切な人との関係が現実的で結びつきの強いものであればあるほど、けんしん <sup>けんしん</sup>献身度も、より素晴らしいものになるだろう。

では、それが<sup>かみ</sup>神の<sup>けいし</sup>啓示と<sup>わたしたち</sup>私達の<sup>かみ</sup>神との<sup>かんけい</sup>関係にどのように<sup>あ</sup>当てはまるのか、<sup>かんが</sup>考えてみよう。



かみ なまえ  
神の名前は  
なん  
何だったかな？

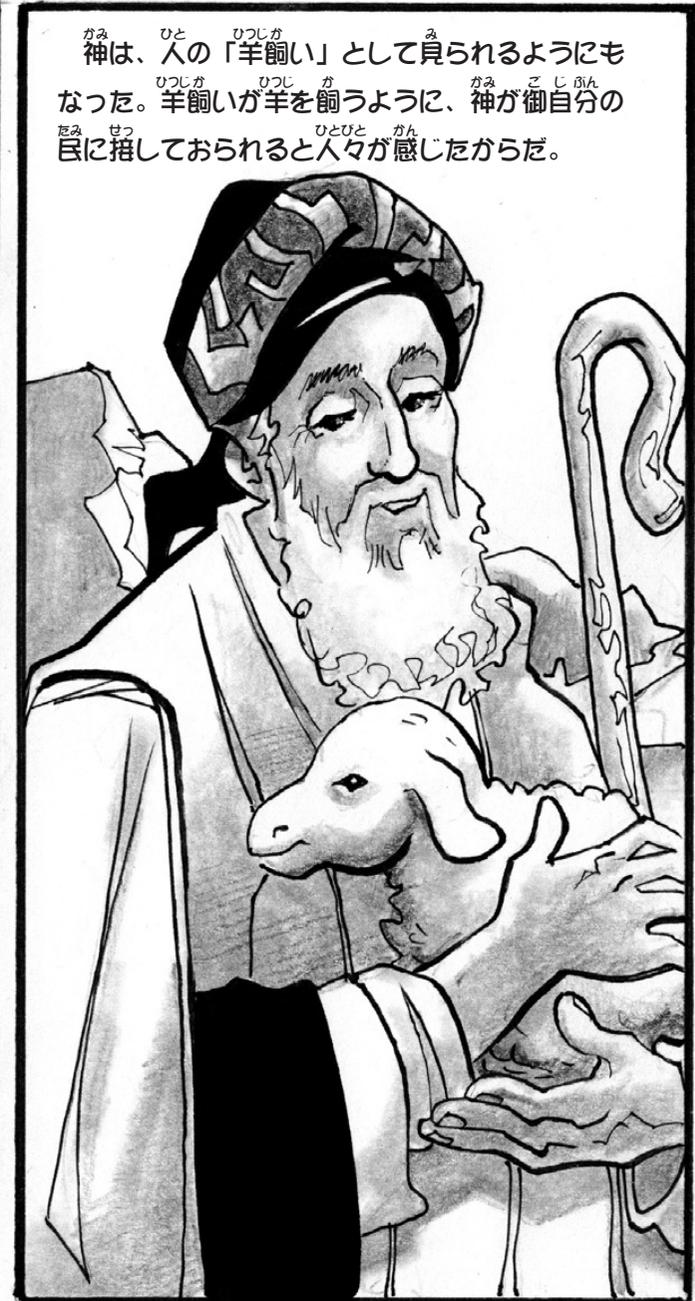
わたしは、  
あ  
有って  
あ  
もの  
有る者！

「わたしは、あ 有るもの  
は、  
とまと  
戸感いとおそれを生じさせる<sup>けいし</sup>啓示だ。  
どろろ  
つかみ所がなく、<sup>じつたい</sup>実体がない。



かみ ごしぶん だみ たい とお はな ぼくせん  
だが神は、御自分の民に対し遠く離れた漠然とした  
そんざい 存在している代わりに、もっと<sup>めいはく</sup>明白で<sup>なまえ</sup>明確な名前が  
う 生み出されるような<sup>たいけん</sup>体験を民にさせられた。それらの  
なまえ うた ものがたり なか ひょうげん  
名前は、歌や物語の中で表現されるようになった。

かみ き どろろ いわ  
神は「避け所」、「岩」、「やぐら」、  
たて  
「盾」などといった<sup>なまえ</sup>名前  
し  
知られるようになったのだ。



かみ ひと ひつじが  
神は、人の「羊飼」<sup>み</sup>として見られるようにも  
なった。<sup>ひつじが</sup>羊飼いが羊を飼うように、<sup>かみ</sup>神が御自分の  
だみ せつ  
民に<sup>せつ</sup>捕しておられると<sup>ひとひと</sup>人々が<sup>かん</sup>感じたからだ。

かみ せいしつ ださい ひとひと せつろ う えいきょう なが つよ ま  
また、神の性質へのイメージは多彩になり、人々の心に生まれた影響はさらに深みと強さを増していった。

かみ つい さいご ちゅうしょうてき なご と はら  
そして神は遂に、最後の抽象的な名残りを取り払われた。

かみ うつく なまえ ひょうげん うた ものがたり し ぞんざい  
神はもはや、美しい名前前で表現され、歌や物語で知られた存在にとどまることはなかった。

かみ  
というのは、神が・・・

せいれい のぞ  
聖霊があなたに臨み、  
うまれて こかみ こ  
生まれ出る子は神の子と  
となえられるでしょう。

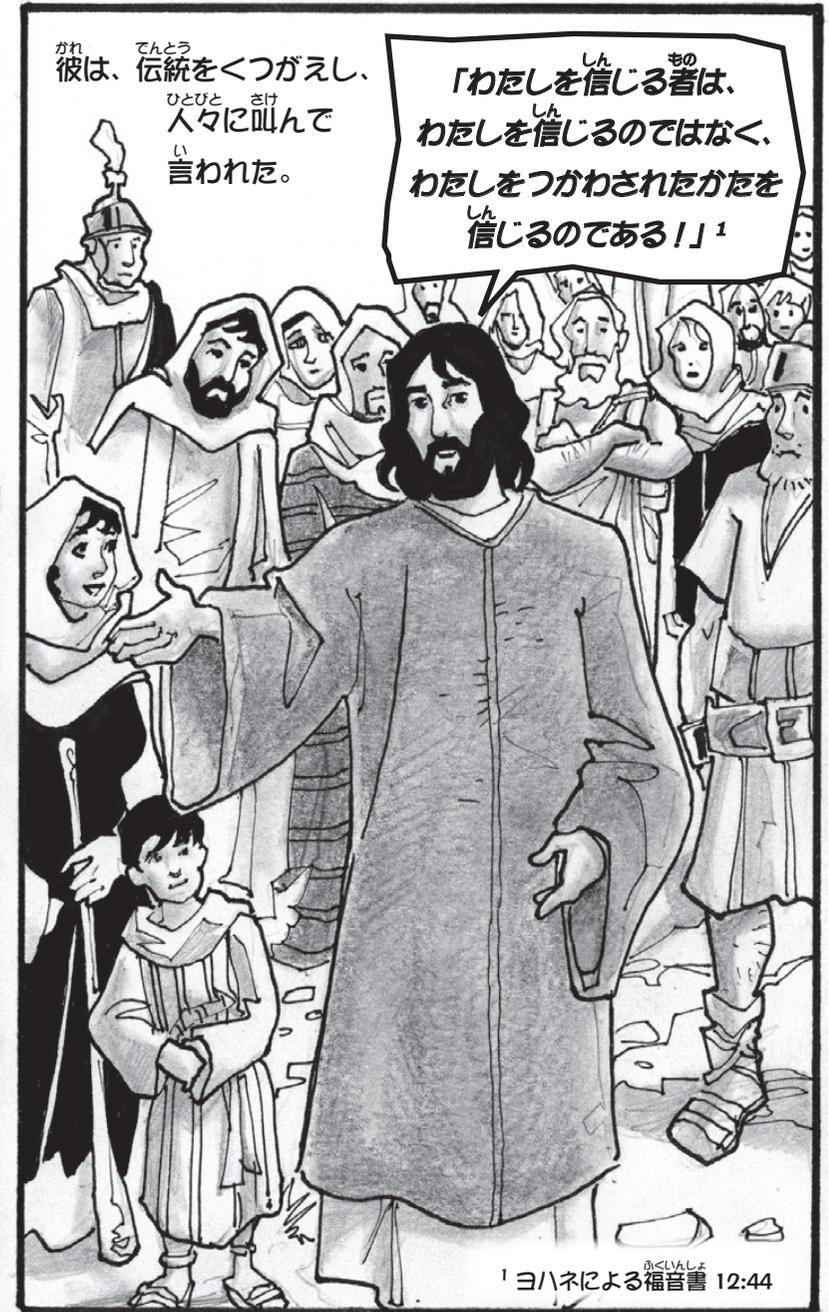
い ひと すがた あらわ  
生きた人の姿となって現れたからだ。

ひと がたし しめ けいじ てし  
イエスという人の形で示されたこの啓示が、弟子となった  
ユダヤ人達にとって、どんなにじゅうよう 意味 重要な意味を持っていたが、  
かんが 考えてもごらん。

しかし、わたしはあなたがたに  
い でき あい  
言う。敵を愛し・・・

かれ しんこう こんぽん  
彼らの信仰の根本は、  
わたしたち じつがい よ りっほう  
私達が「十戒」と呼ぶ律法にあった。

しかし、そこへキリストが現れ、まず最初に彼がしたことは、  
それらの分厚いおおいを取りまくることだった。



イエス・キリストは、<sup>かみ</sup>神を、<sup>ばくぜん</sup>漠然として<sup>じんかく</sup>人格のない<sup>かたち</sup>形ではなくした。

<sup>し</sup>死んだ<sup>きそく</sup>規則や<sup>てんとう</sup>伝統とは<sup>かんけい</sup>関係なく、  
<sup>えいえん</sup>永遠の<sup>えいこう</sup>栄光を持つ<sup>かた</sup>方であることを、  
<sup>みずか</sup>みずか<sup>からだ</sup>からだ<sup>しめ</sup>しめ  
自らの<sup>てい</sup>体をもって<sup>しめ</sup>示されたのだ。

すべて<sup>おも</sup>重荷を負うて<sup>くるう</sup>苦労している<sup>もの</sup>者は、  
わたしの<sup>もと</sup>もとに<sup>きなさい</sup>来なさい。  
あなたが<sup>やす</sup>たを休ませてあげよう。<sup>2</sup>

<sup>かみ</sup>神はもはや、<sup>おも</sup>重荷となる  
<sup>りっぽう</sup>律法ではなく、<sup>いだい</sup>偉大で<sup>しんみつ</sup>親密で  
<sup>あいじょうが</sup>愛情深い<sup>じんかく</sup>人格となったのだった。

イエス<sup>さま</sup>様、どうか  
<sup>こころ</sup>ほくの<sup>なか</sup>心の中に<sup>き</sup>来て、  
<sup>す</sup>住んで<sup>くだ</sup>下さい。

すばらしい<sup>しんゆう</sup>親友で  
いて<sup>くだ</sup>下さることを  
<sup>かんしゃ</sup>感謝します。

わたしたち<sup>ごじ</sup>私達のために<sup>おん</sup>御自分の<sup>いのち</sup>命を  
ささげて<sup>くだ</sup>下さったことを  
<sup>かんしゃ</sup>感謝します。

<sup>まこと</sup>マタイによる福音書 11:28